

NPO食支援ネットワーク・長崎嚥下リハビリテーション研究会

第10回

摂食嚥下コーディネーター 資格認定試験問題

平成30年(2018) 3月11日(日)

試験時間 10:00～12:00

会場: 共済病院8F講堂

問題の訂正について

問題 D-5

誤っているも一つ選びなさい

↓

誤っているものを選びなさい

記述問題 A-1 1行目

摂食・嚥下運動は、食物を認識して国に取りこむ

↓

摂食・嚥下運動は、食物を認識して”口”に取りこむ

問題 A

問 1. 間違っているものを選びなさい

1. 患者の栄養状態において他職種で把握、共有していることは、重要事項である。
2. 患者のBMIが16.5であった。特に介入や対策の必要はない。
3. 体重変化率において、6か月以内に10%以上の体重減少があれば有意の体重変化と判定される
4. 摂食嚥下障害と栄養障害は密接に関連しているため、専門分野のみならず、患者の全身状態において把握しておくことは重要である。

問 2. 唾液に関して誤りを選びなさい

1. 大唾液腺は顎下腺・耳下腺・舌下腺からなる
2. 水分が99.5%以上である
3. 口腔粘膜保護作用がある
4. 1日およそ0.3～0.5リットル分泌される
5. 初期のむし歯の修復に関与する

問 3. 経管栄養に関する次の記述のうち、最も適切なものを選びなさい

1. 栄養剤の栄養素は、胃から吸収される。
2. 栄養剤の注入速度が速いと、下痢を起こすことがある
3. 経管栄養によって、口腔内の細菌は減少する。
4. 経管栄養で、誤嚥を起こすことはない
5. 食道への栄養剤の逆流が生じることはない

問 4. 二次性サルコペニアに関して誤っているものを2つ選びなさい。

1. 脳卒中・誤嚥性肺炎などによって生じる
2. 栄養関連サルコペニアは飢餓で生じる
3. 加齢以外の原因がないサルコペニアのことをいう
4. 活動関連サルコペニアは不要な安静臥床で生じる
5. 二次性サルコペニアでは筋力低下は生じない

問 5. サルコペニアの嚥下障害に関して正しいものを選びなさい

1. 嚥下筋のみにサルコペニアがみられる
2. 明らかな摂食嚥下障害の原因疾患がある
3. 栄養摂取と活動性向上で改善できる可能性がある
4. 診断には握力や歩行速度は含まれない
5. 改善には出来るだけ早期に経口摂取を開始する必要がある

問題 A

問 6. 介護保険についての記述のうち、正しいものを選びなさい

1. 要介護度の区分は、要支援が3段階、要介護が5段階である
2. 要介護・要支援の原因の第一位は、老衰である
3. 2012年から地域支援事業が開始された
4. 地域支援事業は、各自治体(市町村)が主体である
5. 基本チェックリストの記載は医師が行わなければならない

問 7. 地域包括ケアシステムに関する記述のうち正しいものを選びなさい

1. 住まい・医療・介護・予防・生活支援の専門家が独立してサービス提供する
2. 医療・介護の連携強化を目的に、生活支援コーディネーターが派遣される
3. おおむね1時間以内に必要なサービスが提供できる生活圏域を単位として想定している
4. 地域包括ケア会議を通して地域の課題を発見し、政策形成につなげることができる
5. 地域住民の主体性は求められていない

問 8. 一次予防、二次予防、三次予防のうち、二次予防に関する記述はどれか選びなさい

1. 転倒により骨折したために、病院でリハビリテーションを受ける
2. 肺炎予防のために予防接種を受ける
3. 健康増進のために週に3回ウォーキングを行う
4. フレイルの早期発見の検査を受けて該当したため介護予防教室に通う
5. 介護保険の認定を受けてデイケアに通う

問 9. 地域包括ケアシステムの推進について間違っているものを選びなさい

1. 医療ニーズから介護ニーズのみの対応を推進
2. 認知症の人への対応の強化を推進
3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進
4. ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保
5. 口腔衛生管理の充実と栄養改善の取り組みの推進

問 10. 次のうち、認知症を引き起こすことがないものを選びなさい

1. 梅毒スピロヘータ
2. 疥癬虫
3. プリオン蛋白
4. 単純ヘルペスウイルス
5. ヒト免疫不全ウイルス(HIV)

問題 A

問 11. 次のスクリーニング検査の感度と特異度の正しい組み合わせを選びなさい

	疾患あり	疾患なし
検査陽性	160	30
検査陰性	40	170

(単位:人)

1. 感度20.0%・特異度15.0%
2. 感度84.2%・特異度81.0%
3. 感度80.0%・特異度85.0%
4. 感度85.0%・特異度80.0%
5. 感度40.0%・特異度56.7%

問 12. 「智(知)の脳」といわれ、短時間の記憶保持に関与している脳の部位はどこかを選びなさい

1. 乳頭体
2. 松果体
3. 扁桃核
4. 海馬
5. 大脳基底核

問 13. 大脳の味覚中枢はどこかを選びなさい

1. 海馬
2. 島皮質
3. 小脳歯状核
4. 後頭葉
5. 黒質

問 14. これまでの研究で、アルツハイマー型認知症の発症を抑制する確実な方法は今のないが、発症のリスクを少しでも減らすことができると有望視されている方法はどれかを選びなさい

1. アルコール飲料は脳機能を活性化するので高齢者には勧められる
2. 血圧を150mmHg付近に保つ
3. 中高年世代は身長体重比(BMI)を20以下にするほうが良い
4. 週に2~3回、30分ほど早歩きす
5. 座禅を組んで瞑想にふける

問題 A

問 15. 下記の薬剤(カッコ内は商品名)の中で、現在我が国の医療保険でアルツハイマー型認知症に正式には適応がない薬剤はどれか選びなさい

1. ガランタミン(商品名レミニール)
2. リスペリドン(商品名リスパダール)
3. ドネペジル(商品名アリセプト)
4. メマンチン(商品名メモリー)
5. リバスタチグミン貼付剤(商品名イクセロン・パッチ)

問 16. 正しいものを選びなさい

1. 気管の長さは約20cmである。
2. 気管支と気管軸のなす角は右より左で大きい。
3. 右肺は2葉からなる。
4. 肺葉は12の肺区域に分けられる。
5. 肺胞で取り込まれた酸素は肺動脈で運び出される。

問 17. 誤嚥性肺炎を予防するための対応方法として誤っているものを選びなさい

1. 食事場面において、嚥下機能・食形態・食べ方・量をチェックする
2. 嚥下機能に影響する薬剤を服用していないか把握する。
3. 口腔ケアを就寝前にのみ行う。
4. 全身運動や口腔の運動を行い、日中の活動性を改善する

問 18. 次の文章で間違っているものを選びなさい

1. 咀嚼することで脳血流量が増加する
2. 食事の色、味、食感などを感じることで脳の活性化に繋がる
3. 会話を楽しみながら食事をするすることで、より多くの神経ネットワークが働く
4. 経口摂取は経管栄養と比較し消化吸収が劣る
5. 食事は栄養摂取以外にも、文化や風土、季節などを感じる要因となる

問 19. 正しいものを選びなさい

1. 低栄養だと脳卒中の嚥下障害から回復しづらい
2. 経管栄養患者は強制栄養なのでモニタリングはしなくよい
3. 摂食嚥下障害者は排便の調整は特に必要ない
4. 誤嚥性肺炎を発症した場合とりあえず禁食にすることが重要である
5. 在宅療養している高齢者の8割は栄養状態良好である

問題 A

問 20. 脳卒中とそのリハビリテーションに関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、組み合わせとして正しいものを選びなさい

- a. 脳卒中後の鬱状態は、ADLの改善の阻害因子となる
- b. 運動療法は継続することが重要なので、安静時の脈拍120/分以上でも実施する
- c. 失語症は重度であっても身体障害者手帳の交付対象とならない
- d. 回復期リハビリテーション病棟の適応は、脳卒中発症後2か月以内である

- 1. a. ○ b. ○ c. ○ d. ×
- 2. a. ○ b. ○ c. × d. ○
- 3. a. ○ b. × c. × d. ○
- 4. a. × b. ○ c. ○ d. ×
- 5. a. × b. × c. ○ d. ○

問 21. 通常体重50kgだったA子さんは、食事が入らなくなり体重が46kgに減少しました。A子さんの体重減少率は何%ですか？

- 1. 5%
- 2. 6%
- 3. 7%
- 4. 8%
- 5. 9%

問 22. 呼吸困難とはどれを指すか？

- 1. 脈拍数の増加
- 2. 息苦しさの自覚
- 3. 動脈血酸素分圧(PaO₂)の低下
- 4. 経皮的動脈血酸素分圧(SpO₂)の低下

問 23. 呼吸困難があるときの患者の安楽な体位は？

- 1. 起座位
- 2. 行臥位
- 3. 碎石位
- 4. 骨盤高位

問題 B

問 1. 球麻痺に関連する内容で誤っているものを選びなさい

1. 鼻声、嗄声となる
2. 舌萎縮を伴うことがある
3. 喉頭挙上が不十分となる
4. 嚥下反射は概ね保たれる
5. 高次機能障害は来さない

問 2. 下記の内容のうち誤っているものを選びなさい

1. 一側の軟口蓋麻痺では口蓋垂は健側に引かれる
2. 中枢性の顔面麻痺では額のしわ寄せが可能である
3. 交代性片麻痺とは障害と同側の上下肢麻痺と反対側の顔面麻痺などを呈する状態で、延髄下部などの病変でみられる
4. 大脳基底核を含む内包型病変では、咀嚼や舌運動速度の低下がみられる
5. 大脳皮質・皮質下の病変では注意力・集中力低下がしばしばみられる

問 3. 脳卒中急性期の対応として不適切なものを選びなさい

1. 低栄養状態であったため、栄養サポートチーム(Nutrition Support Team:NST)と一日総カロリーや蛋白摂取量の調整を行った
2. 糖尿病を有していたため、血糖は60~110mg/dlとなるよう厳格に管理した
3. 誤嚥のリスクが疑われたため、早期より嚥下機能回復リハビリテーションを開始した
4. 発症から28日が過ぎても経腸栄養が必要であったため胃瘻造設について説明した
5. 発熱の原因として不顕性誤嚥による肺炎を疑い、胸部X線やCT検査、喀痰培養、血液検査などを行った

問 4. 組み合わせとして正しくないものを選びなさい

1. 感覚性失語-----流暢には話すが、会話や文章による言葉の理解が悪い
2. 観念失行-----箸やスプーンの使い方がわからない
3. 半側空間無視-----左側のお皿にある食事には手をつけようとしない
4. 肢節運動失行-----麻痺は軽い割に上手く口に運べない
5. 病態失認-----自分の手に対して他人の手にふれる・扱うように振るまう

問題 B

問 5. 末梢性顔面神経麻痺の症状はどれか選りなさい

1. 開口障害
2. 嚥下障害
3. 開眼障害
4. 流涎
5. 眼球運動障害

問 6. 不顕性誤嚥による肺炎について、適切でないものを選びなさい

1. 口腔内の常在細菌量を減らすための口腔ケアは、予防につながる
2. 嚥下と咳の反射を改善させることは、誤嚥予防(誤嚥性肺炎の予防)につながる
3. 就寝時に上半身を軽度挙上しておくことは予防に効果がある
4. 嚥下反射・咳反射の低下した老人の場合、睡眠中には約50%の方にみられる
5. 睡眠中など本人の無意識のうちに唾液などが気管に入ってしまう、肺炎を引き起こすこと

問 7. 食事場面にみられる症状と機能低下の組み合わせで間違っているものを選びなさい

1. 鼻水 …… 食道入口部開大不全
2. 舌下部への貯留 …… 舌尖の挙上不全
3. 水分摂取直後のムセ …… 奥舌の挙上不全
4. 舌背上の残渣 …… 舌の運動機能低下
5. 咽頭残留 …… 喉頭挙上不全

問 8. 脳卒中に伴う障害に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを選びなさい。

- a. 失語症は、左片麻痺に伴うことが多い。
- b. 半側空間無視は、右片麻痺に伴うことが多い。
- c. 視覚とその認識の障害は、後頭葉の障害に起因することが多い。
- d. 人格変化や情動障害は、前頭葉や側頭葉の障害に起因することが多い。

1. a,b
2. a,c
3. b,c
4. b,d
5. c,d

問題 B

問 9. 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、組み合わせとして正しいものを選びなさい

- a. 失語症とは、発語に関係する末梢の神経や筋肉の障害により、発語がうまくできないことである。
- b. 運動失調とは、筋力低下によって随意運動がうまくできないことである。
- c. 片麻痺とは、身体一侧の、上下肢にみられる運動・感覚マヒのことである。
- d. 対麻痺とは、両側下肢の運動・感覚麻痺のことである。

- 1. a. ○ b. ○ c. ○ d. ×
- 2. a. ○ b. ○ c. × d. ○
- 3. a. ○ b. × c. × d. ○
- 4. a. × b. ○ c. ○ d. ×
- 5. a. × b. × c. ○ d. ○

問 10. レビー小体型認知症で、軽い記憶力低下が始まる以前から見られる症候はどれか
選びなさい

- 1. 食欲低下
- 2. 徘徊
- 3. 嚥下障碍
- 4. 盗られ妄想
- 5. 易怒性

問 11. 前頭前野眼窩面の機能が低下して生じる「脱抑制行動」にあてはまらないものはどれか
選びなさい

- 1. 交通信号無視
- 2. 道路運転中に車間距離をつめる
- 3. 過眠
- 4. 過食
- 5. スーパーマーケットで万引き

問題 B

問 12. 嚔下の直接訓練において肺炎の兆候を知るのに有用なのはどれか選りなさい

- a. CRP
- b. 胸部聴診
- c. 血圧
- d. 血中ヘモグロビン
- e. 血中酸素飽和度モニター

1. a,b,c 2 a,b,e 3 a,d,e 4 b,c,d 5 c,d,e

問題 C

問 1. 嚥下第2期(咽頭期)にみられる現象の組み合わせで正しいものを選びなさい。

- a. 軟口蓋による鼻咽腔の閉鎖
- b. 甲状咽頭筋の弛緩による食道入口部の開大
- c. 食道の蠕動運動
- d. 中咽頭の圧上昇
- e. 喉頭の挙上および閉鎖

1 a.b.c 2 a.b.e 3 a.d.e 4 b.c.d 5 c.d.e

問 2. 嚥下運動に関与しないのはどれか選びなさい。

- 1. 三叉神経
- 2. 外転神経
- 3. 顔面神経
- 4. 迷走神経
- 5. 舌下神経

問 3. 高齢者嚥下障害の特徴はどれか選びなさい

- a. 女性に多い。
- b. 咽頭残留が多い。
- c. 不顕性誤嚥が多い。
- d. 安静時の喉頭の位置が低い。
- e. 口腔期障害は軽度である。

1. a、b、c 2. a、b、e 3. a、d、e 4. b、c、d 5. c、d、e

問 4. 摂食・嚥下障害で咽頭期に起因する症状を選びなさい

- 1. 拒食
- 2. 食渣が口腔前庭に停滞する
- 3. 食事後に湿性嘔声になる
- 4. 口から食物がこぼれる
- 5. 咀嚼に時間がかかる

問題 C

問 5. 加齢による咀嚼・嚥下障害の特徴で正しいのはどれか選びなさい

1. 咳嗽反射が低下する。
2. 口腔内の残渣物が減る
3. 唾液の粘稠度が低下する
4. 食道入口部の開大が円滑になる

問 6. 摂食嚥下に必要な機能について、間違っているものを選びなさい

1. 食べ物の認知・食欲
2. 口まで運ぶ能力・身体を支えておく力
3. 咀嚼、食塊形成ができる
4. 誤嚥しても咳をして喀出できる
5. 胃から腸へと消化吸収していく

問 7. 摂食・嚥下に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい

1. 先行期は認知機能の影響を受ける
2. 食道期は随意的な運動で行われる
3. 口腔期の食塊の移送は口唇で行う
4. 咽頭期は鼻腔が開放して始まる
5. 準備期では食塊を咽頭に送り込む

問 8. 脳卒中急性期の摂食・嚥下に関するもので正しいものを選びなさい

1. 脳卒中急性期における嚥下障害の発症率は、約20%である
2. 嚥下障害は肺炎のリスクとは関連するが、転帰や死亡との関連については示されていない
3. 脳卒中急性期は誤嚥のリスクを考慮し、末梢点滴のみでしばらく継続する方が、経腸栄養で管理するよりも死亡率が少ない傾向があり勧められる
4. 脳卒中患者の嚥下障害に関する長期予後については定説がない
5. ムセが無ければ、嚥下障害はないものと判断される

問題 C

問 9 次の文章の組み合わせで間違っているものを選びなさい

1. 水分を含んだ直後にむせる・・・ 奥舌の挙上不全・舌口蓋閉鎖不全
2. 口腔残留・溜め込み …… 舌の運動機能低下・口腔内感覚低下
3. 食べようとしない …… 軟口蓋挙上不全
4. 食べこぼし …… 口唇閉鎖不全・舌の運動機能低下・上肢の運動機能低下
5. 食後の湿性嘔声 …… 咽頭残留・喉頭挙上不全・食道入口部開大不全

問 10. 脳血管障害による嚥下障害で正しいものを選びなさい

1. 小脳病変の場合は高率に嚥下障害をきたす
2. 脳卒中急性期は誤嚥を予防するために経鼻胃管(NGチューブ)による栄養管理から開始することが勧められる
3. 脳卒中後嚥下障害を有する患者には、誤嚥性肺炎予防として抗菌薬投与が推奨される
4. 大脳半球の脳血管障害の場合は、両側性の場合のみ嚥下障害がおこる
5. 脳卒中患者の飲食や経口薬を開始する前に嚥下評価を行うことが勧められる

問 11. Stage II transport(送り込み)について誤っているものを一つ選びなさい。

1. 食物が舌背上に載せられ、舌の前方部が上顎前歯の裏側の硬口蓋に接し、前方から後方へと接触して行きながら食塊を中咽頭へと絞り込む
2. このときの舌の動きは、pull backと呼ばれる
3. 食塊を送り込めない、舌背に食塊が残る場合は、舌の筋肉、顔面筋群、口蓋の筋群の運動障害と口腔粘膜、咽頭粘膜の感覚低下が考えられる
4. 前歯部前底部や臼歯部前底部への食物の貯留は、口輪筋や頬の筋肉や舌の運動障害が考えられる
5. 食塊が上手につくれない(食塊形成不良)場合は、口腔全体の感覚障害が考えられる

問 12 嚥下障害における栄養管理について正しいものを選びなさい

- a. 経口摂取を中止するだけでは嚥下性肺炎を防止できない
- b. 経口摂取が不可能であれば早期に胃瘻を増設する
- c. 経鼻経管栄養チューブは胃瘻に比べて長期管理に適している
- d. 中心静脈栄養では微量元素は補給できない
- e. 経管栄養ではチューブ先端の位置確認が重要である

1. a、b
2. a、e
3. b、c
4. c、d
5. d、e

問題 D

問 1. 摂食嚥下訓練で誤っているものを選びなさい

1. のどのアイスマッサージは咽頭のみ刺激を与える訓練である
2. ゼリーを訓練で使用する場合は付着性が少ないまとまった形態のものを使用する。
3. 直接訓練開始基準として改訂水飲みテストで嚥下反射をみとめる必要がある
4. 直接訓練を行う場合は、SpO₂の測定や吸引の準備などリスクの管理に留意しなければならない。

問 2. 嚥下訓練開始の条件で誤っているものを選びなさい

1. むせを訴えなければ開始する
2. 意識が清明である
3. 意志の疎通が図れる
4. 口から食べたいという意欲がある
5. 自力で空咳ができる

問 3. リハビリテーション評価で誤っている組み合わせを選びなさい

1. MNA-SF --- 栄養状態評価
2. MMT --- 筋力評価
3. FIM --- ADL評価
4. GDS --- 意識レベル評価
5. MMSE --- 認知機能評価

問 4. 栄養摂取が出来ている低栄養状態患者に推奨されない活動を選びなさい

1. 更衣・整容・歩行(54m/分以内)
2. 静かに立つ
3. レジスタンストレーニング(軽・中負荷)
4. 編み物・手芸・入浴(座位)
5. 安静臥床

問 5. 各嚥下テストについて誤っているものを選びなさい

1. 改訂水飲みテストは3mlの冷水を口腔底に注ぎ、嚥下させる
2. 100ml水飲みテストは、改訂水飲みテスト、食物テストより感度が良い
3. 食物テストはティースプーン1杯(3~4g)のプリンを口腔底に置き、嚥下させる
4. 反復唾液嚥下テスト、100ml水のみテストは座位で行う
5. 反復唾液嚥下テストの評価で、30秒間に2回以下の場合は嚥下開始困難が疑われる

問題 D

問 6. 嚥下障害患者のリハビリテーションで「基礎的で大事なこと」について、誤っているものを選びなさい

1. 評価や見立てをしっかりとすること
2. 病態に合った訓練法を選択すること
3. 他職種との連携を図り、その役割分担を行うこと
4. 呼吸関連の機能に関しては、ある程度嚥下訓練が進んでから着目すること
5. 機能変化の原則をおさえること

問 7. 頸部可動域訓練で誤っているものを選びなさい

1. 患者自身ができる場合は患者自身で頸部の屈曲、伸展、回旋、側屈を行う
2. 頸部の拘縮予防および改善と頸部周囲筋のリラクゼーションを目的とする
3. 最終域まで動かない、自動できない場合は、他動で少し痛みがある範囲まで動かす
4. 頸椎症など頸椎疾患患者へは控える
5. 臥位または座位の体幹が安定した姿勢で行う

問 8. K-point刺激法で誤っているものを選びなさい

1. 絞扼反射が強い場合には注意が必要である
2. 嚥下反射の惹起性を改善させ、喉頭挙上運動の速度及び距離を改善させる
3. 冷水で冷やした8～10F程度のフィーディングチューブを使用する
4. 舌の送り込み運動、咽頭期嚥下運動の協調性を改善させる効果も期待できる
5. 誤嚥のリスクが高く直接訓練が困難な患者も対象となる

問 9. 認知症患者の嚥下訓練として適切でないのはどれか選びなさい

- a. 歌唱
- b. 摂食類似刺激
- c. 頸部可動域拡大訓練
- d. メンデルゾーン法
- e. バイオフィードバック法

1. a、b
2. a、e
3. b、c
4. c、d
5. d、e

問題 D

問 10. 誤嚥を防ぐ仕組みでないのはどれか選りなさい

1. 喉頭蓋の後傾
2. 仮声帯の内転
3. 声帯の内転
4. 輪状咽頭筋の収縮
5. 喉頭挙上

問題 E

問 1. 口腔内が汚れている患者を見つけました。正しいものを選びなさい

1. 歯間ブラシなどを患者に使用するのは歯科専門職に限定されるので、使用しない
2. 経管栄養をされているので(経口摂取なし)口腔ケアは清拭でよい
3. 意識障害があるので、口腔ケアは専門家に任せ、行わない
4. 口腔内を触る事は専門外なので、事故防止の為に触らないようにする
5. 口腔内を確認し、ケアを行う

問 2. 口腔ケアについて、正しいものを選びなさい

1. 片麻痺の患者の義歯清掃において、清掃困難な場合は流水下で洗浄するだけでよい
2. 舌の清掃は嘔吐反射を誘導するため、あまり行わないようにする
3. 歯間ブラシなどの補助清掃用具は患者には用いない。
4. 摂食嚥下リハの前には必ず口腔内の確認をし、口腔ケアは実施すべきである
5. Barthel Indexでの整容の評価は口腔内でブラシをきちんと動かしているの、口腔内は特に見る必要はない。

問 3. 正しいものを選びなさい

1. 脳血管疾患回復期において、早期に義歯を装着し間接訓練を行う事は誤飲の危険があるので、禁忌である
2. 施設入所利用者において、自立支援の視点から口腔清掃は必ず自己にて行ってもら。介助などは行わない
3. 義歯の管理において、乾燥を防ぐため水を張った容器で保管を行い、保管している容器は毎日水を替え、清掃を行う。
4. 歯ブラシの保管はブラシの部分を下にして保管する。

問 4. 間違っているものを選びなさい

1. OHAT(oral health assessment tool)やROAG(revised oral assessment guide)などの口腔スクリーニングツールは歯科職種が使用することが望ましい
2. 管理栄養士が口腔ケアを行ってもよい。
3. 患者の総エネルギー投与量を計算する場合、簡易式では体重当たり25~35kcal/kg/dayで計算を行い、患者の摂食量などにおいて把握をしておく必要がある
4. 人工呼吸器を使用している患者にも口腔ケアを行う

問題 E

問 5. 食事場面における代償的アプローチ方法として誤っているものを選びなさい

1. 食形態の調節
2. 姿勢の調整
3. 一口量の調整
4. 咽頭冷圧刺激

問 6. 口腔ケアについて誤っているものを選びなさい

1. 器質的口腔ケア——歯周病の予防
2. 器質的口腔ケア——嚥下機能の維持やリハビリテーションの意味を持つ
3. 器質的口腔ケア——気道感染など、全身への悪影響を防ぐ
4. 機能的口腔ケア——唾液分泌を改善
5. 機能的口腔ケア——加齢変化による機能低下の予防

問 7. 自力での摂取が困難な臥床患者の食事介助で適切なものを選びなさい

1. 水分摂取の介助を控える
2. 仰臥位の姿勢を保持するよう介助する
3. 食事内容が見える位置に食器を配置する。
4. 患者の下顎が上がるよう上方からスプーンで介助する

問 8. 食事姿勢の調整として正しいものを選びなさい

1. 座面が高すぎる場合は足底接地のため足台を使う
2. 臥位では頸部が屈曲しないように枕を調整する
3. 臥位では足底は支持する必要はない
4. リクライニング座位ではティルト機能を使うと臀部のずれが生じる
5. 椅子座位では体幹とテーブルをしっかりと着けるようにする

問 9. 嚥下調整食について、間違っているものを選びなさい

1. 嚥下調整食学会分類は、病院や施設、家族介護者等が食形態の目安として使用できるよう作られた
2. 嚥下訓練食0jは、誤嚥した際の感染等を考慮してたんぱく質含有量が少ないものが望ましい
3. 嚥下訓練食0tである水分のとりみは、誤嚥しないようにしっかりつけた方がよい
4. 嚥下訓練食1jは、均質ななめらかさで、離水が少ないゼリー・プリン・ムース状の食品である
5. 嚥下調整食3はやわらか食やソフト食、嚥下調整食4は軟采食や移行食と呼ばれるものが多い

問題 E

問 10. 食事とその介助に関する次の記述のうち、誤っているものを選びなさい

1. 味覚、嗅覚、視覚の感覚の低下は、食欲不振をもたらしやすい
2. 嚥下障害は、誤嚥を起こすもとになり、誤嚥性肺炎の原因ともなる
3. 片麻痺のある人には、口の患側にスプーンを入れる
4. 一口ごとに、口の中に食べ物が残っていないか確認する
5. 嚥下体操は食前に行うと誤嚥予防に効果がある

問 11. 次のうち、高齢者の口腔ケアの目的として、間違っているもの一つを選びなさい

1. 唾液の分泌の抑制
2. 口臭の改善
3. 誤嚥性肺炎の予防
4. 歯周病の予防
5. 食欲の増進

問 12. 嚥下機能が低下している人の食事介助として、適切なもの一つを選びなさい

1. 飲み込むときは頭部を後ろに傾ける
2. スプーンの一口量を多くする
3. 食べ物は口腔の奥に入れる
4. 咀嚼しているときに話しかける
5. 食べ物を口に入れたら、口を閉じるように声かけをする

問 13. 早食い、詰め込みの傾向がある場合の食事の注意点として間違っているものを選びなさい

1. 咀嚼が必要な食事形態にする
2. 少量ずつ盛り付ける
3. ボール部が小さいスプーンを選択
4. 声掛けをし、ペース配分をおこなう
5. すぐに飲みこめる食事形態の選択

記述問題

A. 以下の各問いに対して説明をしなさい。

1. 摂食・唾下運動は、食物を認識して口に取り込むことに始まり、胃に至るまでの一連の過程を指す。口腔で咀嚼された食塊は咽頭へとおくられていくが、この時食塊には周囲の臓器からの様々な圧が生じ、いわゆる“圧差”によって食塊は移動する(移送される)。この過程では、どの構造と事象が圧差の発生の原因となっているのか、解説してください。
2. 摂食・嚥下に必要な機能についてstage(あるいはphase)ごとに説明してください。
3. 三大認知症であるアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症(前頭側頭型認知症)について、摂食嚥下行動における異常徴候を疾患別に列挙してください。

B. 次の問いに対してあなたの考えを書いてください。

1. 国による在宅医療の促進は、患者が住み慣れた環境で療養できるという側面がある一方、コスト重視の観点から、医療への依存度が高い患者の切り捨てに繋がるのでは等の懸念も考えられます。
現在の日本の介護や医療の現場には様々な課題があると思いますが、上記の点をふまえ、より良い介護や医療をおこなっていくにはどのような考えや取り組みが必要だと思いますか？